

# 高額SaaSを「削ぐ」という発想 自社専用の軽量システムへ代替するための考え方

2026年7月8日

株式会社DnD | Distill n Develop

## なぜSaaSのコストは「気づいたら増えている」のか

SaaSは導入が手軽な反面、コストが静かに膨らみやすい構造を持っています。よくある原因は次の3つです。

- ・**ゴーストライセンス**：退職・異動・部署変更があっても、ライセンスが解約されずに残り続ける。担当者が変わるたびに1席ずつ積み上がる。
- ・**使わない機能を含む上位プランへの移行**：「いつか使うかも」という理由でプランを上げたまま、結局は一部の機能しか使っていない。
- ・**目的が重なるツールの並行利用**：部署ごとに別のSaaSを導入した結果、類似機能を持つツールが複数走っている。

調査会社Zyloの2026年レポートによれば、企業は平均してSaaS支出の約30%を「使われていない機能やライセンス」に費やしているとされています。

## 「SaaSの棚卸し」とは何をするのか

見直しの出発点は、まず現状を把握することです。棚卸しで確認するのは次の4点です。

- ・月額・年額の費用と契約期間
- ・実際に使っているアカウント数（全ライセンス数との差）
- ・主に使っている機能（全機能中の割合）
- ・同じ目的を持つ他のSaaSとの重複

使っていない機能を削るのではなく、使っている機能だけを残す。その視点の転換が、コスト最適化の入口です。

## 自社専用の軽量システムとはどういうものか

自社業務に合わせた最小限の機能だけで動くシステムです。主な特徴は以下の通りです。

- ・使う機能だけを実装：必要な機能以外は最初から持たない。
- ・業務の流れに沿った操作：SaaSに合わせて業務を変えるのではなく、業務に合わせてシステムを作る。
- ・ライセンス費が発生しない：利用人数が増えてもコストが線形に増えない。

## 代替を進める判断チェックリスト

次のうち2つ以上当てはまるSaaSは、代替を具体的に検討する価値があります。

- 実際に使っている機能が全体の2～3割以下だと感じる。
- 利用者数が増えるたびにコストが比例して上がる席課金制になっている。
- 自社業務に合わない操作フローを毎回手順でカバーしている。
- ライセンスが余っているのに整理が追いつかない。
- 同じような目的のSaaSを複数契約している。

## 代替を始める現実的な進め方

- ・① 一覧化：契約中の全SaaSをリストアップし、費用と利用状況を並べる。
- ・② ターゲット選定：「コストが最も高い」かつ「使い切れていない」SaaSを1本選ぶ。
- ・③ 使っている機能の特定：実際に使っている機能を書き出し、代替に必要な範囲を絞る。
- ・④ 構築・移行：必要な機能に絞ったシステムを構築し、並行稼働を経てSaaSを解約する。

### 株式会社DnDのご支援について

高額なSaaSを業務に合わせた専用の軽量システムへ代替する「SaaS代替」をご提供しています。ご相談・お見積りは無料です。

Webサイト：<https://dnd-inc.jp/> お問い合わせ：<https://dnd-inc.jp/contact.html>